

## 「透明性ガイドライン窓口責任者会議」を開催

### トピックス

2011年6月28日、野村コンファレンスプラザ日本橋において、「透明性ガイドライン窓口責任者会議」が開催されました。本会は、会員会社が登録している透明性ガイドラインの窓口責任者が一堂に会し、透明性ガイドラインの実施推進に向けて認識を深めるのと同時に会員各社間で情報共有し意見交換することを目的として開催されました。会には64社の窓口責任者が参加し、活発な意見交換が行われました。

### 委員長開催挨拶

福原前委員長に替わり、6月より透明性タスクフォースの委員長に就任した新川委員長より開会に当たり以下の挨拶がありました。「製薬企業は医療機関、医療関係者等と協働し学術研究活動を行い、新薬創出、安全対策への努力をしています。医療機関・医療関係者との密なる連携活動により、その関係が誤解されることなく正しく理解されることが必要です。生命関連産業として患者さん・国民の生命・健康に大きくかかわる製薬産業においては、他の産業以上にその活動の透明性が重要であることを踏まえ、会員会社の活動の透明性を高め、社会からさらに高い信頼を得られる産業となることを目指し、透明性ガイドラインを策定しました。本日の会議から、公開・実施に向けた対応へのヒントを掴んでいただきたいと思います。製薬協透明性ガイドラインは、製薬協会会員会社の合意のもとで取り組んでいます。医療関係者への対応も製薬協全体の姿勢として、足並

みを揃えて実施いただくことが重要で、本日の参加者におかれては、それぞれの会社において、透明性ガイドラインに関するリーダーシップを発揮していただきたい」。

### 透明性の最近の状況報告

森田実務委員長から、公開の同意に関する確認事項などの説明があり、日本医療機器産業連合会や日本製薬団体連合会などの他団体への説明状況および医学関連雑誌への広告掲載予定など、最近の活動報告が行われました。

また、各社の「透明性に関する指針」の策定状況など事前に実施したアンケート集計結果の報告がありました。

### 各社の透明性への対応状況紹介

会員会社の中から、対応が比較的進んでいると思われる3社の方に、それぞれの会社の透明性ガイドラインへの対応状況を紹介いただきました。



清水氏



乙黒氏



和田氏



ディスカッション風景

まず、アステラス製薬(株)の清水氏より、社内透明性ガイドライン対応プロジェクトの説明と、指針の会社姿勢となるアステラス透明性ポリシーおよび社内での検討事項の紹介がありました。次にグラクソ・スミスクライン(株)の乙黒氏より、自社独自で進めてきた支払情報開示に関してこれまでの医療関係者の同意取得状況についての紹介があり、同意が得られなかった場合の医療関係者の理由等の報告もありました。そして、ファイザー(株)の和田氏より、社内透明性タスクの説明に続きシステム面の検討状況や社内周知徹底などについての紹介がありました。

### 意見交換

「企業活動と医療機関等の透明性ガイドライン」に則った情報開示を進めていくにあたっての課題と対策について、アンケート結果も参考にして、グループ別ディスカッションが活発に行われました。

テーマは以下の通りです。

- ・医療関係者から公開の同意を得るうえでの課題と対策
- ・社内周知徹底での課題と対策
- ・その他(参考になった意見、業界で揃えたほうが良いと思った意見等)

また、ディスカッションでの意見は以下の通りです。

- ・医療関係者に対してしっかり説明できるか心配である
- ・少し時間はかかるが、社会の流れで理解いただけるのではないか
- ・産学連携は必要なので丁寧に説明すれば理解は得られる
- ・各社で現在、困っている状況
- ・自社では今このように進めている 等

### 閉会挨拶

最後に川邊専務理事から以下の閉会挨拶がありました。「公開について了解をいただける先と契約・依頼をする、というのがこのガイドラインの生命線だと考えています。『企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドラインの策定にあたって』に記載されている意義と、会員会社の活動における医療機関等との関係の透明性を確保することにより、製薬産業が、医学・薬学をはじめとするライフサイエンスの発展に寄与していることおよび、企業活動は高い倫理性を担保したうえで行われていることについて広く理解を得るという目的をしっかりと理解していただいて各社で進めていただきたい」と述べ、本会を締めくくりました。

(透明性タスクフォース 実務委員長 森田 美博)